

準グランプリ

京北・香りの里 六ヶ畔・花簾庭

株式会社CML 居場英則様



「京の奥座敷」と呼ばれる山あいのみどり美しい町に、たったひとりのために作られたバラ園があります。公共施設でも、営利目的のガーデンでもないこの庭園の園主は建設会社の創業者です。年齢80を超えた今も会社のトップとして現役で指揮を執る一方、持病と闘うストレスフルな毎日でした。

自然豊かな環境を求め、束の間の休息を楽しむために訪れるようになったのが、京都市北部の中山間地域「京北」です。この地に足繁く通い、周囲の自然環境に触れるうち、住人のいなくなった古民家や耕作放棄地を目の当たりにし、古民家を再生し耕作放棄地にはブルーベリーを植え、現地に農業生産法人を設立、スタッフを雇用して次第に古き良き里山風景を守る活動が生き甲斐となっていました。ある時訪れた建築士の自宅ガーデンに咲き乱れるつるバラの風景に感嘆し、「自分もバラ園を作りたい」そう心に思い浮かんだのがはじまりです。

すぐにその建築士にバラの庭園デザインを依頼。候補地は国道に面した棚田。依頼を受けた建築士は、「日本の原風景」とも言うべき京北の美しい風景に感銘を受け、デザインコンセプトを『周囲の里山風景に調和する和の趣きのバラ園』と定めました。

バラ園の目前を流れる清流・桂川にある景勝地「六ヶ畔」にインスピレーション得て、この堰を流れ落ちる水しぶきを枝垂れ咲くバラで表現しようというひらめ

きます。バラ園の名前も流れ落ちる水を表す「水簾」から『花簾庭（かれんてい）』と名付けられました。また、和風庭園にあるような石組みを各所に配し、岩を乗り越えて流れる瀬を自然樹形のオールドローズで表現しています。オリジナルデザインの切妻屋根形の八連アーチや家形のパーゴラ、平瓦を載せた木格子堀、備前焼のような焼き締めレンガ敷きの園路など随所に和の風情が漂い、このバラ園独自の魅力となっています。園内に植えられた約250種、約300本のバラは花びらが薄く透光性が高い、繊細かつ柔らかな印象で、自然樹形が美しい品種がセレクトされています。

和の趣きを感じさせるようなバラやビビッドな色であっても小輪や一重で、どこか着物の柄や配色を思い浮かべせるような品種にこだわってよりすぐりました。「あおい」や「つきよみ」などの『和バラ』に加え、「清流」、「しのぶれど」といった和をテーマにした品種も取り入れています。園のもうひとつのテーマは「香り」です。大学や企業の研究所でのバラの香りの成分研究から、バラにはティーローズエレメント（化合物名・ジメトキシメチルベンゼン）という成分が含まれ、香りを嗅ぐことで血中のストレスホルモンを抑制し、森林浴と同様の鎮静効果や抗ストレス効果があることが実証されています。谷筋に立地し、棚田を風が吹き抜ける絶好のロケーションと地形を活かし、植物の香りがガーデン

に滞留・循環し、街へと広がる「香り環境」を生み出すことを意識しています。バラは7種の香りに分類し品種選定しました。バラの他にも香りの強い植物を選定、植栽しています。駐車場には、緑化ブロックにペニーロイヤルミントのハーブマットを敷き詰め、車の出入りや人が歩く度に爽やかなハーブの香りが立ち上ります。

ここ京北は『花降る里けいほく』というキャッチフレーズのもと自治体、地域住民が一体となり四季を通じて花の溢れる街づくりへの取り組みが進行しています。この町を愛する園主の「町の人もバラ園を楽しんで訪れていただけたら」という計らいのもと春と秋のバラシーズンには無料公開されるようになります。オープンガーデンにも参加し、他県からもさまざまな世代の人が訪れます。一目で見渡せる園内には、香りを嗅ぎやすいように、高さに気を配って剪定されたバラが園路に沿って植えられています。園内は植物やバラの香りで満たされ、訪れた方々は思い思いの時間を楽しんでいます。国道沿いという立地からバラ愛好家だけでなく小さな子どもを連れたファミリーや若い男性、バイクに乗ったツーリストなど、普段わざわざ足を運ばれない方々にも気軽に訪れていただいております。園主は、自然の持つ力に感銘を受け、医学的な治療に積極的に取り組む一方で、野菜を中心とした食事改善や糖質制限の療法で持病に向き合い、健康を取り戻しつつあります。

「たったひとりのためのバラ園」としてスタートした「花簾庭」。つるバラが枝を伸ばし、木立バラの根が張ると共に、多くの人に愛される「みんなを笑顔にするバラ園」へと成長しつつあります。日本ならではの美意識の息づく「和の趣きの庭」に海外からの旅行者にも立ち寄ってもらいたい。香りの記憶は視覚に比べ忘れにくいというデータがあります。さまざまな人にとって思い出や記憶に残る「香りの里」を目指し、このバラ園の物語はこれからも紡がれてゆくのです。（二部抜粋して掲載しています）

審査員講評



理事 白砂 伸夫

デザインコンセプトが『周囲の里山風景に調和する和の趣きのバラ園』とあり、京北の田園にバラが調和し、癒やしの空間を生み出しています。ガーデンは6つのシーンから構成されていて見応えのあるものになっています。また香りに注目し、バラの多様な香りによるガーデンセラピーが実践されていて高く評価しました。ここを訪れる人々の溢れる笑顔が素晴らしい。バラは手入れが不可欠であり、末長くガーデンの魅力を発信し続けられることを願います。



1. 京北・香りの里 六ヶ畔・花簾庭
2. メインゲートから見るバラ園全景
3. 手前にオールドローズゾーン、奥にバラの滝を望む
4. 岩を乗り越える瀬をバラの花で表現したオールドローズゾーン
5. 六ヶ堰の流れ落ちる水しぶきをバラの花で表現したゾーン
6. 里山風景に馴染むようデザインした切妻屋根を模した八連アーチ
7. 家族連れも多く、園内には笑顔が溢れた
8. さまざまな世代の方々が訪れた昨年のオープンガーデンの様子



バラ園内のムービー